

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPU



January 2018
No.779



第13回 囲碁・将棋大会(南魚沼市)

小学生から一般まで、南魚沼の腕自慢たち70名で対局しました。

4~5 特集 吉田博彦講演「新潟市公民館改革職員研修会」

CONTENTS

- 2………… トピックス 「新潟市公民館改革職員研修会」開催される
- 3………… 視 点 「学ぶことと、学んだことを地域に生かすことの意味」
新潟県高齢者大学学長(新潟医療福祉大学教授) 石上 和男
- ひろば
掲 示 板 「チャレンジ100って?」柏崎市社会委員 社会教育団体 「シニア合唱団」代表 山田 正彦
「会議予告 事務局」
- 6………… 実践記録シリーズ 「つばめ目耕塾」 燕市中央公民館
- 7………… サークル交流 「いつも明るく、楽しく、笑顔で!!!」(出雲崎町) / 「絵手紙講座」(佐渡市)
素 顔 拝 見 奥村 亮祐さん(新発田市) / 熊倉 達也さん(田上町)
- 8………… お元気ですか ネットワーク 「人生さんぽ」 五泉市・樋口笑美子さん

TOPICS

「新潟市公民館改革職員研修会」開催される

新潟市公民館改革職員研修会が12月3日(日)横越地区公民館で開催されました。

この研修会は、平成22年度の初回開催以来、今年度で8回目の開催になりました。この研修会は、新潟市の公民館のあり方を職員の資質向上等を中心に研修するものです。第1回では「新潟市公民館改革宣言」がなされ全国的にも注目されました。

今回は、主に、次の2点を研修目的として行いました。

- 1 全8区の事例発表で改革の検証をし、併せて、参考事例として共有する。
- 2 著名な講師を迎え公民館の進むべき道を再確認する。

1 事例発表

午前中は、市内8区が事例発表を行いました。進行上、1事例10分という短い時間でしたが、8人の代表はパワーポイントを使い効率の良い発表を行いました。また、事業の紹介として太鼓や盆踊り歌の披露をした

区もありました。



ホールいっぱいになりました



岩室地区公民館 盆踊り歌のパフォーマンス

今回は、各公民館の事業実施上の関係から、研修会開催日としては異例の日曜日開催でしたが全職員142名中119名の参加でした。各館の開館要員を除けば、参加率が大変高い研修会でした。

2 基調講演

全国で多くの講演活動を行っている、吉田博彦氏(特定非営利活動法人 教育支援協会 代表理事)を講師に迎え2時間の基調講演を行いました。

講演テーマは「郷土新潟創生のための公民館の使命」
「2020年以後の我々の社会が直面する危機と社会教育・公民館の役割」

休憩なしの長時間の講演でしたが、講師の歯切れのよい話に参加者は引き寄せられたようでした。(講演の内容は4〜5ページの特集に掲載)

3 トークディスカッション

全国公民館連合会事務局次長の村上英己氏 講演講師の吉田博彦氏と新潟市中央公民館長の五十嵐政人氏の3人でトークディスカッションを約90分間行いました。主に、若者が活動を行う事例などを村上氏が紹介し、全国で注目を集めた広島県・大竹市玖波(くば)公民館が全国一の公民館(平成15年度文科省

最優良公民館受賞)になった理由を吉田氏が解説しました。玖波公民館は女性職員が一人で事業改革や運営を行い、魅力的な講座を開設するなど大きな成果を上げたとの説明に参加者の関心が一気に高まった様子でした。



3人の熱いトークディスカッション



全公連 村上事務局次長

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間1,920円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711



「チャレンジ100って？」

柏崎市社会教育委員 社会教育団体「シニア合唱団」代表 山田 正彦



私は市社会教育登録団体の合唱をしていて、その縁で社会教育委員に4年前から就いています。退職直前に奇しくも目にした「新たな挑戦百項目書き出せ」を実践して順次着手し、今9年間を顧みれば少なりとも成果ありと感じています。

その中の合唱・太極拳での共通問題は、男性メンバーが少ないこと、「シニア層の特に男性の活動参加をどう促進するか」が私の社教委としての課題と認識しています。経済環境の厳しさや社会情勢から退職年齢が高くなる傾向にあり、この課題は益々重要度を増しています。

この例は、私の社教委としての課題が「初めの一步をどう踏み出してもらったか」に掛かっていることを暗示しています。肝心なその「二歩」への答えが未だ五里霧中のまま新しい年を迎え、私の課題への挑戦は続きます。

視点



新潟県高齢者大学学長(新潟医療福祉大学教授) 石上 和男

「学ぶことと、学んだことを地域に生かすことの意味」 —自分探しの場の提供—

高齢者大学長に就任しては3年が経過した。私は現在大学で学生や大学院生と一緒に「研究」をしている。「研究とは何ぞや」と考えると、それはこれまで常識になってきていることの中で「何か変だ、真実は何か、極めてみよう」と疑問を持つことから始めることだと学生たちに教え、大学生になったらその姿勢を貫くように推奨している。世の中には、疑問やわからないことが無限にあるはずで、その中

のひとつでも明らかにすることが出来れば、それが「研究」の出発点であると教えている。定年を迎え自分探しの年齢に到達した人々が求めているものは、まさにこの「研究」そのものでないかと思う。学びの中で、自分のやりたいこと、興味を持っているものを探ること、そして気が合う仲間と一緒に考え探求し、行動することを求めているはずである。

そして「学んだことを地域に生かす」ことは、マズローの唱える欲求五段階の最上階、すなわち「自己実現の欲求」といわれていることそのものである。「自分の掲げた人生の目標を自分なりに実現したい」とか「自分のできることを、世の中、人のために一杯やってみよう」という自己実現の欲求にその「研究」をつなげてもらいたいのである。人生は有限である。できれば楽しく学び、地域貢献をして、最期はPPK(ペンペンコロリ)を実践することができれば、こんなに素晴らしい自分探しはないと思う。

掲示板 HOT NEWS

＜第2回公民館月報編集委員会＞
期日 平成30年2月8日(休) 時間 13:30～16:30
会場 新潟市中央公民館303講座室
内容 (1)平成30年度公民館月報の編集について
①市町村執筆割当の確認 ②特集執筆者の選任
③紙面構成の検討
(2)その他 編集全般について

＜第3回理事会、第2回評議員会＞
期日 平成30年2月14日(休)

会議予告 事務局

時間 理事会 10:00～12:00 評議員会13:30～16:30
会場 新潟市中央公民館 理事会 404講座室
評議員会405講座室
内容 (1)市町村負担金見直しについて
(2)平成29年度決算見込みについて
(3)平成30年度活動基本方針・事業計画等について
(4)平成30年度予算について
(5)第69回県大会(新潟市大会)について
(6)その他 当面の問題等について

*編集委員会、理事会、評議員会の開催案内は1月上旬に配信されます。

特集

吉田博彦講演「新潟市公民館改革職員研修会」(平成29年12月3日(日))



吉田 博彦 特定非営利活動法人 教育支援協会代表理事
1952年大阪府枚方市生まれ。
1999年教育支援協会代表理事に就任。民間からの教育改革を提唱し、文部科学省や教育委員会との協力によって全国でさまざまな教育事業をおこし、地域教育力の育成を行っている。
著書「公・民連携による教育への道 1+1を3にする」など多数。

さまざまな教育改革の提唱で知られている吉田博彦氏が、今年度の新潟市公民館改革職員研修会に講師として招かれました。12月3日(日)に新潟市横越地区公民館で行われた講演内容の要旨を紹介します。

講演テーマは「郷土新潟創生のための公民館の使命」〜2020年以後に我々の社会が直面する危機と社会教育・公民館の役割〜で、約2時間の講演でした。午後一番の時間帯で、午前中の研修疲れが出ると思いますが、講師の歯切れがよく鋭い指摘をまじえたお話に参加者が熱心に聞き入りました。

1 日本の教育の現状 社会教育・公民館の役割

地方創生が大きく取り上げられているが、これから全国の市町村の50%は消滅するのではないかと言われている。学力が高い秋田県も同様で、生き残りのためには子供の教育だという発想が根底にある。やらざるを得ないという思いがある。

学校は習ったことを正解として出すが社会教育の正解はいろいろ。まず集まることから始めよう。ある市で校長会の幹部8人は一様に「新学習指導要領



ほぼ満席の研修会場 真剣なまなざし

というヘアクティブラーニングの考え方はわかるが学校現場で成果をあげるのは無理」と言っ。特に、主体性をもって多様な人と協働して学ぶ態度の育成が難しいという。これを社会教育でやって欲しい、やるべきではないかと強調していた。まったくそのとおりである。

全国の公民館大会の大会テーマや分科会テーマには「講座などイベント開催で地域づくりに貢献など」というものが多いが、今は住民に自治力をつけるという視点がないといけない。

福祉事業はねらいが明確で分かりやすいが、自治力養成まで踏み込んでいない。社会教育はこれに踏み込めるが、うまく解説しないとわかりにくい。これを住民に分かり易く説明できる職員が欲しい。

2 新潟の公民館

平成22年度の新潟県公民館60周年大会のときに招かれて講演した。あの時、言った価値観は違ってきているが基本は「地域の復活」で間違いはない。

午前中の事例発表で新聞は「おくやみ欄」しか見ないとの話は最低限地域を見ているということだ。盆踊りの発表は地域人のつながりをつくるということとはわかるが、税金を使ってやる効果を合理的に説明できないといけない。



鋭い指摘で 熱を帯びた講演 吉田氏

新潟は東京への人材供給源であってはならない。だから若者を育てる必要がある。教育は一人の若者の自立である。この視点がないところは消滅する。要は、「人が人を育てる」。当たり前だが結局これに尽きる。人とつながることに全力で。ちんけな小手先事業はいらない。こればかりやっているダメ公民館はつぶれたほうがまし。そのぶんの予算が回るなど良い公民館のためになる。

「俺がやらなければ誰がやる」（市民精神）この精神が進む社会は良い。

「俺がやらなくても誰かがやる」（住民根性）「俺がやらなくても役所がやる」（役所依存）これでは、自治・自立がない市民となりそのまちは消滅するだろう。

住民と直接つながる部署は公民館だけである。福祉などはサービスだけだから。この気持ちを忘れることなく仕事をして欲しい。

3 文部科学省機構改革の問題点

平成30年度の予算編成に向けて文部科学省は機構改革を行う予定だ。その問題点を指摘しておきたい。

(1) 生涯学習局を総合政策局へ再編する問題点

中曽根内閣の時代に臨時教育審議会が設置され、1987年8月の第四次答申で、最終答申として「文部省に生涯学習を担当する局の設置」等の機構改革を求めて以来、生涯学習という理念は日本社会に定着し、「生涯学習政策」は全自治体で取り組まれている重要行政課題である。それにもかかわらず、臨教審答申に代わる理念を示すことなく「生涯学習」の局の名称をなくすのは日本の生涯学習政策の後退以外なものでもない。ここでは、「政策官庁」から「現業官庁」への逆戻りである。

とりわけ、現内閣において最重要課題としている「人生100年時代構想」においても、生涯学習は主要なテーマであり、全体の政策との整合性もない。もし変更するとしても「人生100年時代構想」を基本理念として、「生涯学習」の名称を局として残し、「生涯学習政策局」とすることで、臨教審答申の理念は受け継がれるはずである。

(2) 社会教育課を廃止する問題

地方における急激な人口減少と高齢化を受けて、「消滅可能性都市」の問題が提起される中で、地域創生に向けて「町づくり・人づくり」の大切さが全国の自治体で理解され始めている。この問題の最大テーマである「自治力」の育成のために社会教育の重要性は、各地の首長・地方議会において認識

がされ始めているところである。

そうした中で、社会教育政策を担当する「課」を無くし、「地域学習推進課」に名称を変更するのは、社会教育が地方創生に重要な役割を果たすという認識を文部科学省は持っていないと解される。ましてや、「地域学習推進課」の中に社会教育振興担当などという「室」以下のセクションを設けるなどというのでは、文部科学省の「社会教育の軽視」と受け取られ、公民館をはじめ社会教育施設の所管が教育委員会から首長部局へ移る流れを加速してしまいかねない。

(3) 3つの「学習推進課」を並列させる問題

今回の機構改革案では「生涯学習推進課」・「地域学習推進課」・「共生社会学習推進課」という3つの「学習推進課」が設置されることになっている。その内容を見てみれば、「地域学習推進課」は地域社会の絆づくりを通じた働きかけ・支援が課の目的とされ、「共生社会学習推進課」は共生社会の諸問題への取り組みを通じた働きかけ・支援が課の目的とされている。そもそも生涯学習の理念は学校教育や社会教育などのあらゆる「学び」を包括する概念であり、地域学習も共生社会に向けた学習も全て「生涯学習」を推進する「課」の仕事であり、それを3つに分けるのは生涯学習理念を落とし込めるものである。これでは臨教審答申以来の日本の教育政策との整合性がまったくおかしくなる。

*平成29年12月3日(日)新潟市公民館改革職員研修会
講演要旨から抜粋

文責：田原 理

実践記録シリーズ

238

「つばめ目耕塾」

燕市中央公民館

1 つばめ目耕塾とは

公民館が主催している成人講座です。平成23年に平成の合併以前から各地区公民館で開催していた「成人大学」「笑和大学」を統合拡充する形で始まりました。参加費無料、事前申込不要で直接会場へお越しいただければ受講できるのが特徴となっています。

講座内容については、音楽・歴史・軽運動・落語・人権問題など、聞いて楽しい話から暮らしに役立つ話まで幅広い分野のテーマを設定し年10〜12回開催しています。

なお、目耕(もっこう)の名前の由来ですが、中国の逸話集「世説新語」のお話にてできます。目で紙の田を耕す、読書や学習をするという意味があります。

この言葉にちなみ、つばめ目耕塾は「こころの目を耕そう」をテーマに毎年7月〜11月の間に10〜12回の講座を開催しています。



「だまされないで!悪質商法」での寸劇の様子

2 平成29年度テーマについて

平成29年度は次のようなテーマで開催しました。

- ①夢工場制作「槌音の響く街」上映会&矢代秀晴ミニライブ
- ②だまされないで!悪質商法

③夏の弦楽四重奏

④エノケン終活唄めぐり

⑤江戸時代の旅と越後の観光名所

⑥良寛とその時代

⑦つばめ目耕塾寄席

⑧昔話・聞く楽しみ!

⑨「ストレッチ」を体験しませんか?

⑩掛け軸・屏風に親しむために!取り扱いのポイントと楽しみ方!

⑪人権を考える!北朝鮮による拉致問題について

3 受講者の傾向について

原則平日昼間に開催しているため、主に高齢者向けの内容が多くなつてはいますが、特に年齢制限はありません。毎回受講者にアンケートの記入をお願いしています。全体的に男性に比べて女性の参加者が多い状況にあります。しかし歴史関連や乗り物関連のテ

マとなると、必ず男性の受講者の方が増えます。テーマごとに受講者の男女の参加比をみると、興味が分かれる傾向にあるようです。



「エノケン終活唄めぐり」の様子



「ストレッチ」を体験しませんか?の様子
参加者のほぼ全員が女性でした

4 担当者の見解

公民館の定番講座として多くの方から関心をいただいている「つばめ目耕塾」ですが、リピーターが多い反面、若干のマンネリ化と限られた予算内での新規テーマの発掘や講師の選定に苦慮している現実があります。アンケートでは「来年も同じテーマで開催してほしい」といった要望も沢山ありますが、続ける飽きも出ますし、やはり近年の全体参加者数は減少傾向にあります。

他方で受講者は多いに越したことはありませんが、あまり受講者を見込めないテーマを無視していくことにもできません。しかし人権関係等、社会的に重大な事項はあまり人気がないのが実情です。

また市内3地区の公民館を巡回する形で開催し、特に高齢者が遠方まで移動しなくても参加できるよう配慮はしていますが、「せっかくな興味のあるテーマのだけど車を運転出来ないのでは会場まで行けない」といったお問い合わせをいただくこともあります。公民館主催の講座ではありますが、単純に公民館だけでは解決できない問題も浮き彫りになります。

これからも様々な社会の出来事や関心を持たれている話題について、積極的に情報収集をし、魅力的な「つばめ目耕塾」を開催していきたいと考えています。

(田中 幹也)



「しも明なへ、
楽こへ、笑顔じ!!」

英会話サークル

カナダ出身のポールを中心に活動している英会話サークルです。英会話を学ぶ動機は各人各様。純粋に自己啓発として英会話を学ぶ人、海外旅行に備える人、東京オリンピックのボランティアガイドを目指す人、海外出張に備える会社員、ボランティア通訳ガイドを目指す人、明るく楽しい雰囲気に着かれた人、果ては中学生時代に受けた悲惨な英語教育への恨みを晴らしたい屈折した(笑)動機の人までも。中にはニューヨークの語学学校へ短期留学したという頼もしい若者もいます。

でもメンバー全員に共通しているのは明るく楽しく英会話を学んでいる事です。



今は半分の時間でメンバー各自の日常の出来事を互いに発表しています。ハロウィンやクリスマスも巧みに取り入れ学習に生かしています。日本人は中高6年間英語を学んでも英会話が苦手の人がほとんどですがサークル活動を生かし何時か少しでも国際交流に役立てば最高です。

出雲崎町・英会話サークル
近藤 佐敏 記

絵手紙講座

智絵会(ともえかい)

私たちのサークル「智絵会」は、当初公民館の学習講座から自主講座に移り、来年は公民館活動として節目の10年目になります。

平均年齢65歳の18名で構成され、毎月1回講師を迎えて楽し

く活動しています。

活動としては、年1回の島外研修や地区の展覧会、又地元銀行や郵便局そして病院の展示場に依頼され出品しています。

出品作品をご覧になられた方からは「元気をもらいました」とか「癒されました」と喜んで頂いております。

講座は1回2時間で、各自が持参した季節の花や野菜・おもちゃや置物・人物など描くものは様々です。終了30分前になりますと全員が描いた個性豊かな作品を床にずらりと並べて講師が合評をしたり、会員同士「何色と何色を混ぜるとこんな色がだせるの?」とか「絵と文字のバランスがいいね」と楽しく親睦を図っています。



佐渡市・智絵会

熊木 徳子 記

新発田市中央公民館

主事 奥村 亮祐さん

この春、新採用として着任したフレッシュマン、奥村亮祐さんを紹介します。

奥村さんはパッチリした瞳とクールな顔立ちが印象的な好青年。職場内では「おっくー」の愛称で親しまれています。

そんな奥村さんの趣味・特技はバスケットボール!小学3年生から高校3年生までの約9年間続けたそう、スポーツマンの爽やかオーラが溢れています。

担当している事業のおじいさん、おばあさんからは孫のようにかわいがられ、地域のみなさんとの信頼関係を順調に築き上げています。小学生を対象とした講座では、お兄さんの存在。特に女の子から人気です!事務仕事はもちろん、力仕事も多い公民館ですが、奥村さんの軽快なフットワークとみなぎるパワーにいつも助けられています。

これからの中央公民館の若きエースとしての活躍に、皆さんもご期待ください。

(新発田市中央公民館 松田 真紀 記)



素顔拝見

田上町公民館

主事 熊倉 達也さん

公民館職員2年目、熊倉達也さんを紹介いたします。昨年度の春に異動で公民館に配属となり、貸館業務をはじめ、子ども・体育関連の各種事業など多岐にわたる業務にも果敢に立ち向かい、日々一生懸命頑張っています。

そんな彼が大好きなのが、「子供」と「東京ヤクルトスワローズ」です。子供向けの事業では、その優しい表情と柔和な性格から「たっちゃん」の愛称で参加する子どもたちから絶大な人気を誇っているほか、自身が野球経験者ということもあり、プロ野球東京ヤクルトスワローズの大ファンでもあります。毎年ちよくちよく神宮球場に「県外出張」したり、定期的にヤクルト商品を購入するなど、スワローズ「支燕」には余念がありません。

公民館勤務2年目となり、名前がどんどん売れてきた証拠に、今では熊倉さんを指名する問い合わせも増えてきています。今後の更なる活躍にみんな期待していますよ!

(田上町公民館 主事 牛田 伸幸 記)



ネットワーク

新潟市公民館改革職員研修会

この研修会の内容は今号トピックスに「実践発表」、特集に「講演要旨」を掲載してあります。紙面の関係上、「トークディスカッション」を「ネットワーク」で紹介いたします。

新潟市公民館改革職員研修会
12月3日(日)開催

トーク者1 吉田 博彦
(教育支援協会 代表)

トーク者2 村上 英己
(全公連事務局次長)

時間は90分間でしたが、全国の事例紹介や活動の提言があり中身の濃い研修になりました。主な発言は

〈五十恵 若者が公民館に来るにはどんな策があるだろうか。〉



コーディネーター
五十嵐政人
(新潟市中央公民館長)

〈吉田 子どもが学校に行くのは人間関係があるから。公民館も関係づくりに焦点をあてるべきだ。〉

〈村上 月間公民館でも「若者特集」をやったが、そこで感じるのは、若者が来ないと次がないという危機感があった。若者が来る条件は①関心のある講座開設 ②それぞれに役割をつくる。〉

〈五十恵 地元の高校生が公民館活動に参加している。学校サイドから参加の申し出があった。〉

お・元・気・で・す・か

樋口笑美子
(五泉市)



退職後、不慣れた家事や普段居なかつた者が介入して、孫たちもさぞかし戸惑った事と思います。時が経ち孫たちも私も成長し、一歩踏み出す事にしました。最初は和服を一人で着られるようにと夜の部「着付け教室」へ。その後、家族に少しでも美味しい食事をと「料理教室」へ。のし紙や表書きがきれいに書けますようにと「筆ペン教室」とフリータイムが嬉しくて楽しく

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後お元気に活動している様子を紹介するコーナーです。

て、次から次と色々な事にチャレンジして行きました。次に月1回多種多様な「学び」を12回体験できると「ごせん女性学級」へ。名称の通り、学校と同じような構成になっています。学生全員をクラス分けし、リーダーを決め、諸連絡はリーダーを通して伝わる様に、全員が自覚を以て行動できるようにしています。4月に新入生が加わり、長年在籍の方々まで幅広い

年代層の集まりです。学習内容については、3月の閉級式後の茶話会において、学級生全員で今年度の反省や要望を出し合い、次年度の四月の開級式までに決定します。「学び」の中で、お互いに耳を傾け、時には励まし合って、全員参加が前提の学習をめざしている会です。気づけばもう10年も在籍しています。これも生涯学習課の方々が陰日向なく支えて下さった賜物と思っております。

「感謝、感謝」です。ありがとうございました。

雪によって生ずる諸問題解決のため取り組んでいます

新潟県をはじめとする豪雪地帯は、豊富な水資源や良好な自然環境に恵まれ、食料やエネルギーの供給地として、我が国を支える重要な役割を担っております。協議会会員18市町村は、緊密な連携を図りながら一致協力して特別豪雪地帯の住民生活の向上を図るため、取り組んでいます。

新潟県特別豪雪地帯市町村協議会

会長 (妙高市長) 入村 明 (会員18市町村)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館 (新潟県市長会内)

TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

事務局長のつぶやき

オジサンがガツポーズについて、よっしゃーなんて大声出している酔っ払いを見かけると、どんないいことがあったのか存じ上げないが、そんなアピールはオジサンには不似合いだと感じる。よほど嬉しいことがあったのだろうかややるなどは言われないが、やるならもう少し小さく控えめが

良いと思うのだが。もう一つ、オジサンのハイタッチ。これも若者なら微笑まじさもあるが、オジサンが酔った(素面ではできない)酒席などで隣や向かいの若い連れの女性とかとハイタッチする。なぜか男とはやらない。あれはセクハラの一つではないかと嫌な気がしている。家では嫁さんや娘さんには絶対やらさないだろう。(田原)